

## 第1回全国の天体観測施設の会開催

1992年6月29日から7月1日にわたって、上記の会合が兵庫県立西はりま天文台で開催された。近年の天文台建設ブームにのり、望遠鏡を一般公開している施設はすでに100箇所を超え、最近では大口径化(～1m)へと進んでいる。この勢いが一時的なものでバブル経済の崩壊のような道を進まないように、施設間の連携を強める必要に迫られている。このような公開天文台の健全な発展と活動は必ず、天文コミュニティを裾野から支える力になるはずである。そこで、全国の天体観測施設を有する団体に呼びかけ、初の会合を持つに至った。

今回は、初めてということで施設、個人を問わず参加者を募集したところ全国から65名の参加があった。北は北海道から南はトカラ列島に至るまでほぼ全国から参加された。開催地の地理的条件からやや西日本に片寄ったことは否めない。

初日は、京都大学名誉教授・小暮智一氏の「公共天文台がめざすもの」という演題で基調講演で始まった。各施設とも施設紹介を1枚のポスターで発表することをノルマにしたことに加えて、ほとんどの参加者が初顔合わせということで、休憩時間にはポスターを前に活発に情報交換をする光景が見られた。2日目は、3つのテーマを設けて進行した。『観測室の環境』というテーマでは尾久土正己(西はりま天文台)が、『こんな工夫でできるおもしろい観測』では西城恵一氏(国立科学博物館)が、『望遠鏡点検』では清水実氏(北軽井沢駿台天文台)が提起やレビュー講演を行い、各テーマではいくつかの関連した発表があった。中でも、『望遠鏡点検』では、熊森照明氏(堺市)が望遠鏡を前に実地に指導を行った。また、今回の呼びかけと並行して行われたアンケート調査の結果が黒田武彦氏(西はりま天文台)によって報告された。最終日は、私立施設の活動報告が行われ、公立施設にはないパワーのある活動が参加者の関



心と呼んだ。最後に今後の会の運営について議論が持たれた。その結果、しばらくは緩やかな組織(つまり持ち回りで会合を開催する程度)で浸透をはかり、回を重ねていく中で、方向性や組織形態を決めていくことになった。

そこで、次回は関東以東の参加を促す意味からも関東地区で開催すること決め、その世話人として西城恵一氏(国立科学博物館)をお願いした。

この会が発展し、日本の天文学に貢献できるよう皆様のご協力・ご指導を強く希望します。また、この会を開催するにあたって全国の天体観測施設の担当者の方々にご協力いただきました。この場をかりてお礼を申し上げます。

尾久土正己(西はりま天文台)

なお、この会合を開催する上で収集した全国の施設に関する情報に関しては、可能な限り提供いたします。また、近く集録も発行する予定です。

問い合わせ先

〒679-53 兵庫県佐用郡佐用町大撫山

兵庫県立西はりま天文台

tel: 0790-82-3886